

2021(令和3)年度 部局マニフェスト ～私たちの組織使命と目標～

部局名	産業振興部
役職	部長
氏名	東 弘久
2021(令和3)年度の抱負	暮らしやすく活気あるまちを形成するため、強固な産業基盤の確立を目指します



業績目標の達成状況 5. 先進的な取り組みを行い、成果があった 4. 達成水準を上回る成果があった 3. 業績目標を達成した 2. 取り組んだが、業績目標を達成しなかった 1. 業績目標に取り組まなかった
--

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況(自己評価)	理由
◎部局目標1 観光客を呼び込み、もてなすことにより産業としての観光を確立する	にぎわい忍者回廊プロジェクトの推進	<現在の状態> 忍者体験施設を中心としたPFI事業を推進するため、PFI法に基づく実施方針を公表し、事業者との対話等を行っている。 ↓ <達成目標> 本年度は、忍者体験施設PFI事業における特定事業の選定及び事業者の公募を行い、複数(2グループ以上)の参画提案を得る。 ※目標が達成した状態 民間事業者のノウハウを活用した良質で低廉なサービス提供を目指したPFI事業の手法やスケジュールが具体化され、事業が進捗している。	関係機関や庁内関係部署と緊密な連携を図り、事業進捗管理を行う。	▶	PFI事業の制度上、事業者選定委員会終了以降でないと公表できない。
◎部局目標2 観光客を呼び込み、もてなすことにより産業としての観光を確立する	新しい生活様式に対応した観光事業の推進	<現在の状態> with/afterコロナやDX社会への対応など新しい時代における観光の取組みとして、昨年度アプリを使った城下町まち歩きコンテンツの構築を行った。 ↓ <達成目標> 本年度は、伊賀市オリジナルアプリを活用した城下町まち歩きコンテンツの機能拡張とキャッシュレス実証実験等、事業者や来訪者のDX対応への取組みを進める。 ※目標が達成した状態 三密回避や非接触など新しい生活様式に対応した観光事業の取組みにより観光需要が徐々に回復し、反転攻勢に向けた着地整備がなされている。	先端デジタル技術を取り入れた伊賀オリジナル地図アプリを活用した体験イベントの実施やキャッシュレス化の実証実験を行う。	▶	2 本年度においてもコロナ禍は終息せず、当初予定していたイベントも形態変更を余儀なくされたことから、キャッシュレス化の実証実験の実施には至らなかった。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標3					
自然と共存し、人と人がつながり、農業を元気にする	スマート農業の推進	<p>〈現在の状態〉 市内の農業経営体について、農業者の減少、高齢化等が原因で後継者や労働力が不足している。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 省力化を目標にラジコン草刈機や農業用ドローンなど省力化機械を積極導入しようとする3団体と協力して、スマート農業の実証を行う。</p> <p>※目標が達成した状態 上記団体が先進モデルとなることで、市内他経営体にも導入が進み、スマート農業の実現、農作業の省力化が進んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート農業に取り組む農業経営体の協力を得て、実演会等の啓発活動を行う。 ・新たに省力化機械を導入する経営体に補助金等で支援する。 	▶ 2	スマート農業に取り組む団体として、目標である3団体に対して2団体にとどまった。
◎部局目標4					
自然と共存し、人と人がつながり、農業を元気にする	伊賀産まれ伊賀育ちの伊賀牛生産体制の確立	<p>〈現在の状態〉 近年の素牛価格高騰により、伊賀牛の飼養頭数が減少している。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 伊賀産まれの素牛を年間40頭生産し、『伊賀産まれ伊賀育ちの伊賀牛』の増頭を図る。</p> <p>※目標が達成した状態 素牛価格の高騰を抑制、付加価値の向上、畜産農家の経営的負担軽減を図ることで、伊賀牛の増頭とブランド力の強化が図られる。</p>	<p>伊賀地域内で不足している素牛育成に関する技術・知見を素牛育成農家に取得していただく。</p>	▶ 3	目標である40頭を超える49頭が生産され、今後は持続可能な運営形態の確立に向けた取組が課題となる。
◎部局目標5					
森林や里山を大切に、林業を元気にする	森林環境保全の啓発と整備	<p>〈現在の状態〉 林業労働者の高齢化・後継者不足、山林所有者の管理不足等により市内山林は荒廃している場所が増加している。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 そこで、森林経営管理制度を活用して環境整備を行うモデル地区を1箇所設定して集中的に取り組む。</p> <p>※目標が達成した状態 その取組を他地域へ波及させることにより、伊賀市全域で適正な管理がなされた山林が増加する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林経営管理制度について、モデル地区において制度説明会を開催する。 ・森林所有者を対象に、今後の林業の経営と森林の管理についての意向調査を行う。 	▶ 3	目標としていたモデル地区の選定については、地域の合意を得て諏訪地区に決定した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標6					
中心市街地の賑わいをつくる	旧上野市庁舎利活用事業の推進	<p>〈現在の状態〉 目標達成のためPFI法に基づく実施方針を公表し、事業者対話に着手している。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 事業者選定に向けて、参画意欲のある事業者と、より具体的な対話を実施する。</p> <p>※目標が達成した状態 旧上野市庁舎利活用事業について、忍者体験施設整備PFI事業に伴う特定事業選定の際に必須附帯事業として位置付けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・PFI法に基づく事業進捗支援業務の受託業者と定期的に協議を行い、情報交換、進捗管理を行う。 ・庁内及び関係機関と適時協議を行う。 	▶ 3	PFI事業に参画意欲のある事業者と積極的な対話を行うことで、必須附帯事業への位置付けの参考となった。
◎部局目標7					
地域の特性を活かし、商工業活動を盛んにする	コロナ禍でダメージを受けた事業所の支援	<p>〈現在の状態〉 新型コロナウイルス感染症の影響により、市内事業所の経営状況が悪化しており、救済策として市の助成制度を設けている。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 事業継続支援給付金の周知を徹底し、事業運営に苦慮されている700件程度の事業者に対して、給付金を交付する。</p> <p>※目標が達成した状態 事業継続支援などの助成を実施することにより、コロナ禍による経営状況の悪化が最小限にとどめられている。</p>	<p>広報誌によるチラシの全戸配布やホームページへの掲載、行政チャンネルの活用などとともに商工会議所・商工会の会報など、広く周知を図る。</p>	▶ 4	目標である700件の支援を上回る約900件の支援を実施した。

組織使命	組織使命達成に向けての目標	目標の達成水準	目標を達成するための手段	達成状況 (自己評価)	理由
◎部局目標8					
働く人の意欲に応え、 地域ぐるみで創業を 支援する	起業・創業の促進	<p>〈現在の状態〉 新たな事業主体の創出を促進し、地域経済の維持・発展を図るため、改修費等に要する経費を補助する「起業促進事業」を実施している。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 実績として、令和元年度が4件、2年度が5件であり、本年度は、空き家・空き店舗を活用して起業する事業者5件以上を目指す。</p> <p>※目標が達成した状態 起業が促進されることにより、空き家・空き店舗が減少し、地域の活性化が図られる。</p>	<p>商工会議所や商工会が主催する創業塾参加者等に事業の周知を行うとともに、移住交流の担当部署と連携して情報提供を行う。</p>	▶ 4	<p>コロナ禍にありながら13件の応募があり、厳正なる審査のうえ7件の起業支援を実施した。</p>
◎部局目標9					
ため池の適正管理を 図る	利用の無い防災重点農業用ため池の廃止	<p>〈現在の状態〉 伊賀市では、多くの防災重点農業用ため池が存在する。このうち利用の無いため池については、維持管理不足から決壊時における人的被害が懸念されている。</p> <p>↓</p> <p>〈達成目標〉 本年度において、防災重点農業用ため池を3池廃止する。</p> <p>※目標が達成した状態 利用が無く、維持管理されていないため池を廃止することで、当該地域住民の安全性の向上を図る。</p>	<p>ため池の所有者・受益者など地元調整を充分に行い、市及び地元負担軽減の観点から、国補事業による廃止事業を実施する。</p>	▶ 3	<p>8月から2月にかけて各地域の説明会を実施しており、当初計画どおり進展した。</p>